

# Leaf @ 同窓会

No. 9

編集・発行

島根大学教育学部同窓会（本部事務局）

松江市西川津町1060 島根大学教育学部内（〒690-8504）

Eメール e-dousoukai@edu.shimane-u.ac.jp

http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/edu/index.html

電話（新設）0852-32-6297（FAXも同）

## あなたにとって「同窓会」とは？

島根大学教育学部同窓会

会長 有馬 毅一郎

「同窓会」に限らず、多くの任意の組織・団体等が、ピンチを迎え、あがいているようです。組織離れの現象と言ってもよいし、人と人との繋がり希薄化の進行でもあるようです。

今年の私たちの同窓会の「役員総会」でも、このことが話題になりました。同窓会は、運営上様々な課題をかかえています。根っこの所で、私たちが大切にしなければならぬことは何かです。

前号「同窓会誌68」の特集、座談会「なぜ同窓会離れは進むのか」を、お読みいただいたでしょうか。現在、同じテーマで、若手の卒業生チームに対し、提言・集約をお願いしています。また、次号「同窓会誌69」に向けては、各年代層ごとの卒業生に、大がかりなアンケートを実施しています。（今、集計・分析を進めています。）

母校・島根大学教育学部での「四年間」は、その後の人生にどんな意味を持っているのか。同じ釜の飯を食った者の繋がり、今どうなっているのか。今、母校をどんな想いでふりかえることができるのか。



役員総会



総会後の学生の演奏

同窓会（本部・事務局）では、「同窓会」のより良いあり方を求めて、卒業・修了生の方々の声をお待ちしています。私たちの同窓会の誇るべき歴史と伝統を汚さぬよう努めたいと思います。お力添えをお願い致します。

## 「人間科学部」が誕生しました

平成29年4月、本学6つめの学部「人間科学部」が誕生しました。この学部では、臨床心理や健康科学などの視点から、今と未来を健やかに生きる「人間」を研究するとともに、実践を通して地域社会に貢献していきます。これにより昭和30年頃から教育学部に置かれていた心理・臨床系の専攻がなくなることになりますが、今後は、新学部はもちろん教職大学院や地域の皆さまとさらに連携し、次代を担う子どもを育て、学び続ける教師の養成に邁進してまいります。

(理事長 原 広治)

# 同窓会員からの「今」の報告です

## 学生たちは今

言語教育（英語）専攻3年  
山根 真美



大きな希望を抱き島根大学教育学部に入學してから、はや2年半が過ぎました。私にとって大学生活は新しいものとの出会いの連続でした。ボランティア活動で子どもたちとかかわる楽しさや難しさを知りました。そして、「子どもに寄り添って?」「子どもの背中を押すって?」など、たくさんのことを学び続けています。また、去年の夏にはフロリダへの海外研修に行く機会に恵まれました。様々な価値観がある面白さを知ったり、新しい文化にたくさん触れたりしました。現地で出会った人とは、今でも交流を行っています。これらの貴重な体験を力にして、今は教育実習の準備に励んでいます。「どれだけ子どもの立場になって考えることができるか」。そんなことを大切にしながら夢に向かって進んでいきたいです。



## 学校では今

奥出雲町立高尾小学校 教諭  
川上 宜久 (S60卒)



島根大附属小を含め、4校目の複式学級設置校で勤務しています。現任校の高尾小学校は全校児童9名。そこで、5年生1名6年生1名の世界最小の複式学級の担任をしています。人の数だけで言うときさみしい地域ですので、多くの人との出会いを積極的に求め、全校で落語に取り組んでいます。うれしいことに地域にも愛され、年3回の定期公演では、各回百名超のお客様に楽しんでいただいています。この夏は日本海テレビのニュースと24時間テレビのCMに取り上げていただき、出前寄席の機会が飛躍的に増えました。この座布団1枚からの挑戦で、もの怖じせず表現できる子どもの育成を実現し、お客様を幸せの笑顔で包む「小さな学校のでっかい教育」を展開しています。



## 同窓会支部は今

益田支部 益田市立東陽中学校 教頭  
豊田 邦昭 (H元卒)



益田支部では、昨年12月1日に同窓会会長の有馬毅一郎先生が益田に来られるのを機に、益田市内、鹿足郡内の島根大教育学部卒業生約10名が集い、懇親会を行いました。集われた方のほとんどが、在学中ないしは卒業後に有馬先生とのお縁をもった方ばかりで、昔話に花が咲き、あちらこちらで笑い声が響いていました。その談笑の輪の中心には有馬先生がおられ、いろんなエピソードを語っていただき、とても心温まる時間となりました。

益田支部では、ここ何年か支部の活動があまり行われませんが、この懇親会を機に、「何か来年度は動きを作ってみよう」という声が上がリ、現在、年度内に益田市・鹿足郡共同の研修会や集いをもちたいと考えています。



## 地域では今

邑南町教育委員会 教育長  
土居 達也 (S49卒)



地域住民が主体で運営する学校を「地域学校」と総称し、町内12公民館エリア毎の設置を進めてきました。

学校教育においても、ふるさとの「ひと・もの・こと」を学ぶふさと学習が進められています。しかし、限られた時間の中では、自ずと制限がかかります。また、学校に行ける地域の方は、一部の人となります。地域には、実に多様で多彩な大人がおられます。その人たちとの出会いこそが、実は、地域を学ぶ本質ではないかとさえ思っています。

学校に地域の人を招くだけでなく、地域へ子どもたちを返すこと、そのことが地域への愛着を持つ事へつながると考え、取組を進めています。学校が得意なこと地域が得意なこと、育てたい像を共有しながら役割を担うことが、先生方の負担軽減にもつながると思います。自然体験・社会体験、伝統文化の継承、栽培活動等々。地域には子どもを育てる資源がいっぱいあります。大人も元気をもらっています。地域創生の要は、教育です。



# こんな卒業生が、いらっしやいます

## 悠なる松江-ニュージーランド(NZ)で書道を教えています



書道家  
クラウザー章子 (旧姓山形) (S49卒)

ニュージーランド(以下NZ)からお便り申し上げます。私は昭和49年3月教育学部卒業後郷里の鳥取で教壇に立ち、1年後結婚。夫の勤めで茨城県東海村に住み、出産育児の毎日でした。しかし22年後、2人の子供が成人したのを機に離婚。1998年に英国人の今の夫と香港で出会い再婚しました。47歳で人生の大チャレンジでした！その夫の仕事でブダペスト、ウィーンそしてプラハと移り住み、プラハの日本人学校で書道講師を探していると聞き、二十数年振りに書道を再開しました。さらに海外からの競書を受け入れてくれる(公財)日本書道教育学会を見つけ入会。プラハで画廊を経営しながら6年間教えました。そして2005年NZへ移り住み、2009年4月号の競書雑誌「不二」に、書道部恩師の野津蒼雲先生の訃報を見つけ、本当に驚きました！先生の師が学会創立者の石橋犀水先生と初めて知り、不思議な深い縁に接し、私の松江時代が一気に蘇ったのです。下宿していた御弓町から学校まで、自転車通っていた風景が心に焼き付いております。現在も書道教室を開き、以前のチェコ人の生徒が準師範、NZ人で師範資格を取得した生徒も現れ、18年間の成果が出てきました。昨年11月には、鳥取の書道家柴山抱海先生をお呼びして、首都ウエリントンで書展を開催。大成功を収めました。これも書道をやっていたお蔭と野津先生に感謝しております。今後も微力ながら、外国の方々に日本の書の世界を楽しんで頂けるよう、こつこつやっております。最後に、同窓会の皆様のご健勝とご多幸を、遠いNZよりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

## 愛知で人材派遣の会社を 経営しています

株式会社フォーテック 代表取締役  
鬼村 武史 (S60卒)



現在私は、愛知県豊川市で約三百名程度が稼働している人材派遣会社を経営しています。本来なら地元島根で教員になる予定でしたが、肝心の教員採用試験に落ちたこと、その際有馬先生が民間企業を紹介して下さったこと、更には義父が現会社を起業し、その手伝いで転職したことが人生の大きな転機となり、その後義父の後を継いだ形で現在に至っています。

その間リーマンショックや度重なる派遣法の改正への対応など様々な経験をしてきました。近年はその経験と反省を踏まえ、高齢化社会を迎え、益々不足すると予想される介護人材の紹介・斡旋業務に力を入れています。また同業者の集まりで国の認可団体の協同組合の副理事長として、業界のイメージアップと健全化を目指して活動しています。

またプライベートでは、娘が中学時代会長職も含めて三年間PTAに関わっていた為、担当の先生達とすっかり仲良くなり、娘が卒業後も一緒に飲みに行って愚痴を聞いたり、ゴルフの腕を競ったりしています。

最後にその娘ですが、今年某国立の教育学部英語専攻に合格しました。中学と高校の部活動でいい先生に出会えたことが教員を志望する動機になったようです。自分が果たせなかった夢を叶えてくれるかもしれないと密かに喜んでいる今日この頃です。



# 第11回 教育学部ホームカミングデー 「教育から地域を魅せる」

2017年10月21日(土) 15:30-18:00 島根大学教育学部2階【212研修室】  
(島根大学松江キャンパス)

講演1 大畑 伸幸氏 (益田市教育委員会人づくり推進監)

「教育から地域を魅せる～学校教育と社会教育の経験から～」(仮)

講演2 岩本 悠氏 (島根県教育魅力化特命官)

「教育の可能性を引き出す～やってきたこと、やりたいこと～」(仮)

意見交換 (ワールドカフェ) 2つのグループに分かれ、2人の講師を囲んで意見交換

\* 18:30～懇親会を計画しています。場所「炉端かば」(松江学園通り店)

## 発行

『同窓会誌』年1回  
「Leaf@同窓会」年2回

『同窓会誌』は68号を数え、全国でも希有な歴史と伝統を誇る機関誌です。「Leaf@同窓会」と共に会員にお届けしています。



## 助成

支部活動、支部との交流、同期生会などへの助成

支部活動には助成金を、同期生会などにも、参加人数に応じた助成を行っています。

## 開設

ホームページ、事務局

同窓会員への情報発信に努めています。教育学部内には、同窓会事務局(室)を設けています。電話・FAX、メールをご活用ください。

## 支援

学生生活、就活、教員の教育研究活動

「教師力パワーアップセミナー」の他、学生のみなさんの体験活動や就職活動への支援を行っています。学部教員には、「教育振興奨励賞」を差し上げて応援しています。

## 連携

島根大学同窓会連合会、教育学部との連携、共催

五学部の同窓会が連合して活動しています。卒業後の支援も連携して行っています。「ホームカミングデー」も大学・学部との共同事業です。

## 発刊

新しい名簿ができました。

「同窓会名簿」(2016)

4年に一度の発行。注文制、3500円。会員限定で提供しています。師範学校以来の全卒業・修了生の名簿です。

島根大学教育学部同窓会(本部)は  
こんな活動をしています

### 同窓会事務局からのお願い・連絡

- 同窓会費(年額2,000円)を納入してください。
  - ・各支部を通じて納入してください。
  - ・支部に所属されていない方は個人会員としてご加入ください。個人納入には郵便振替をご利用ください。
- 口座番号：01440-5-6975 加入者名：島根大学教育学部同窓会
- ・終身会員(原則60歳以降)は一時金20,000円です。
- 「同窓会」開催の際は祝い金を送ります。お知らせください。(支部交流会、同期生会、専攻・研究室別など)
  - ・10人まで=5,000円 25人まで=7,000円 40人まで=10,000円 41人以上=20,000円
- 事務局に固定電話(FAX兼)が設置されています。 TEL.0852-32-6297